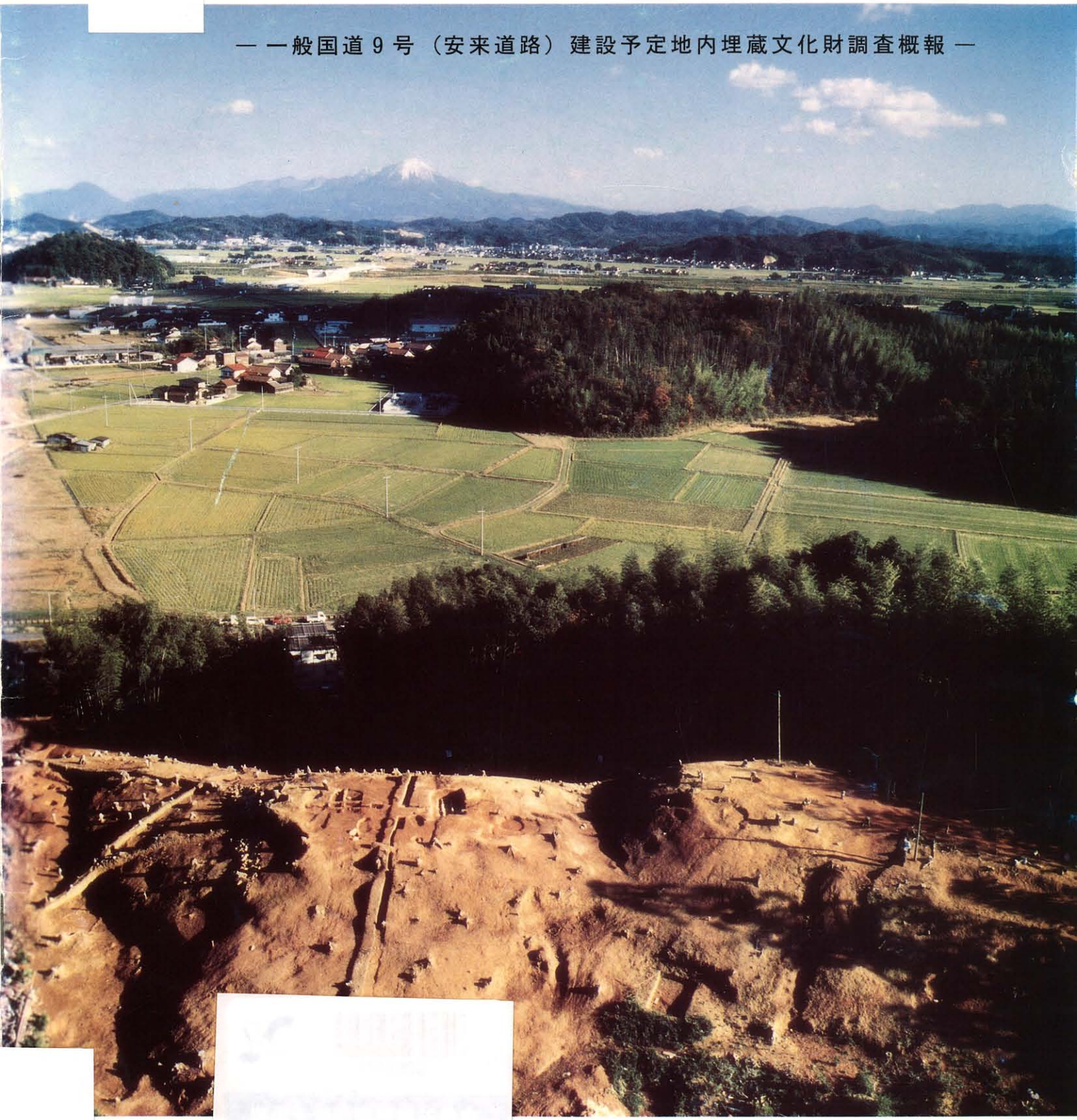
津山1号墳

―一般国道9号（安来道路）建設予定地内埋蔵文化財調査概報―



1995. 3

島根県教育委員会
建設省松江国道工事事務所

はじめに

島根県教育委員会では，建設省から委託を受けて，一般国道９号（安来道路）建設予定地内にある遺跡の発掘調査を行っています。今回調査された塩津山１号墳は，安来市久白町及び荒島町の丘陵上にあり，平成６年４月から発掘調査を開始し，大型の竪穴式石室を持つ，今から約1700年前，古墳時代前期に築かれた古墳であることが明らかになりました。

以下，今回の調査の主な成果について述べることにします。

塩津山１号墳の立地

安来市の西端，西赤江町から荒島町の一帯は，北に中海，東に飯梨川・伯太川岸に広がる安来平野の美田地帯と，標高50メートル以下の低い丘陵地帯が広がっています。この丘陵上では，弥生時代から奈良，平安時代までの多くの墳墓が見つかっており，山陰でも有数の墳墓密集地域として知られています。弥生時代後期には，四隅突出型墳丘墓として知られる仲仙寺８・９・10号墓や宮山４号墓，安養寺墳墓群などが造られ，現在の中海岸から南へ３km程入り込んだ丘陵上に集中して発見されています。古墳時代は，前期には中海を見下ろす弥生墓とは異なる丘陵上に発見されていて，大成古墳，造山１，３号墳といった出雲を代表する前期古墳が造られています。中期には清水山古墳群，造山２号墳，宮山２号墳が，後期から奈良安時代には，石棺式石室を持つ塩津神社古墳や若塚古墳，火葬墓で石製骨蔵器を持つ中山遺跡，小久白遺跡があります。このように約400年間という長期間に渡りこの地を治めた首長の墓がたどれるという全国的にも稀な歴史的環境の中に塩津山１号墳はあります。

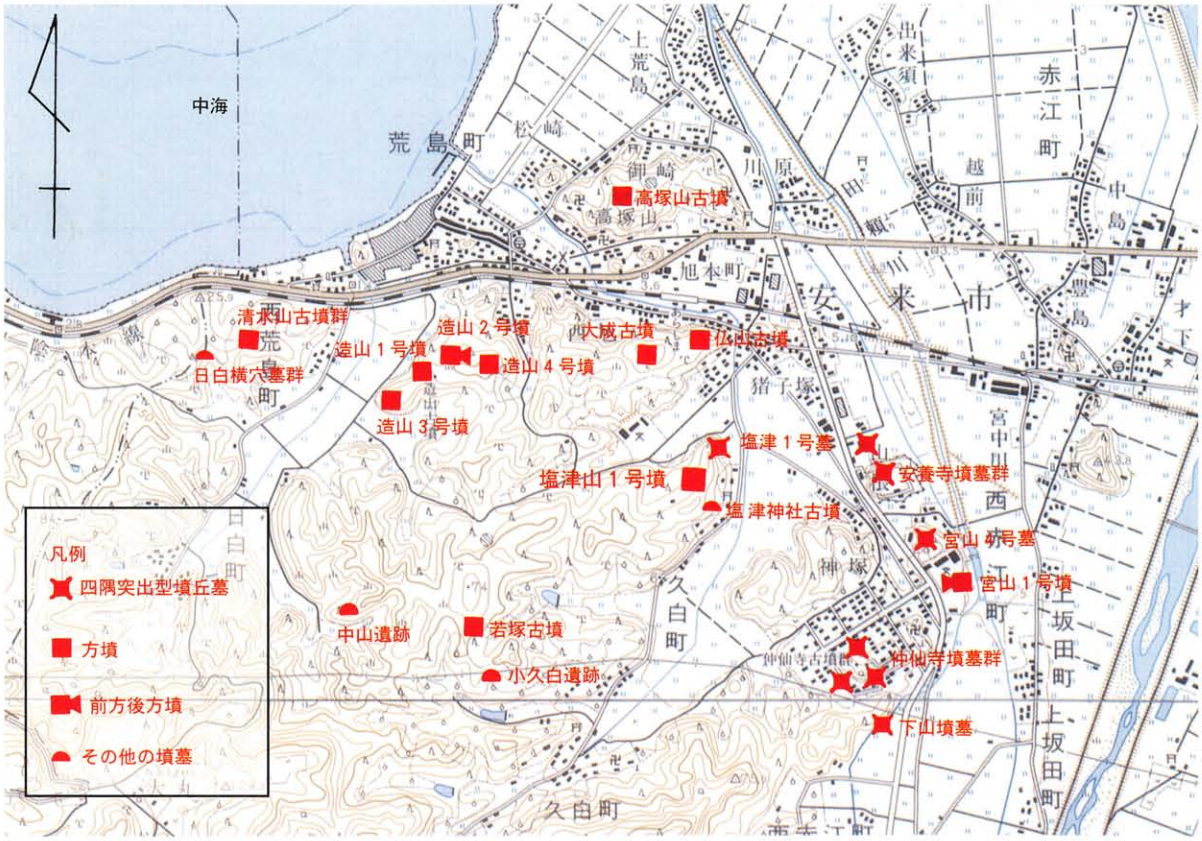


図１　塩津山１号墳の位置と周辺の主な墳墓（Ｓ＝１／25,000）

主な成果

今回の調査で，標高35メートルの丘陵上に造られた古墳時代前期の古墳であることが明らかになりました。

規模は，南北25メートル，東西20メートル高さ３メートル以上であり，平面形は長方形を呈しています。

墳丘は，地山に溝を掘り込み，尾根筋から区画し，方形を造り出しています。墳頂部などには盛土を施し，成形されています。墳丘斜面には葺石が置かれており，北側・東側斜面で確認できています。

埋葬施設は，墳頂平坦面において，内部が竪穴式石室である第１主体を最も古いものとして，合計６個（第１～６主体）を確認しています。埋葬の方法はいずれも異なっており，バラエティーに富んだ内容です。

出土遺物は，主体部上に供献されたり，棺として使用された多数の土器，第２主体上面から銅製と見られる鏃１，第３主体の棺内より副葬品の鉄製品１などがあります。

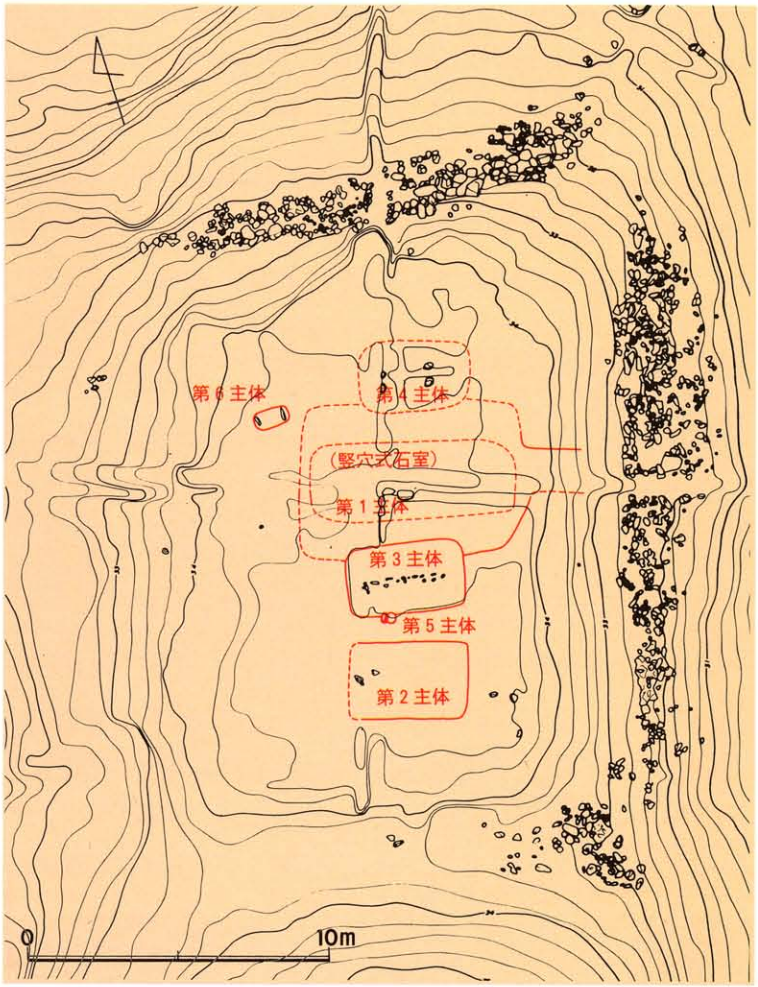


図２　地形測量図（Ｓ＝１／250）

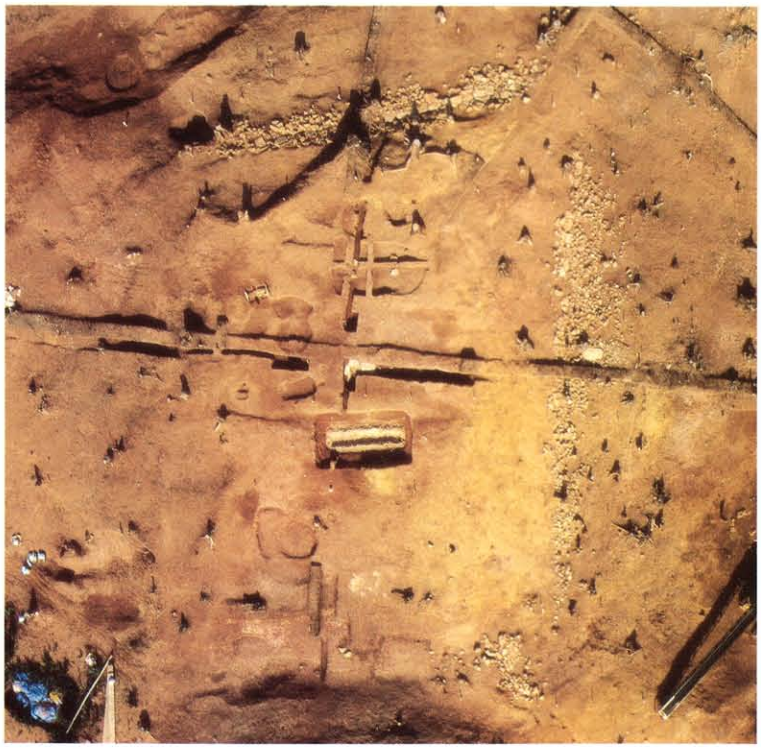


図３　１号墳の全景（図の上が北）

葺　石

造られた当時の様子が伺える北側の斜面では，墳端にテラス状の平坦な面を造り，ここに石を置いている状況が見られます。このような構造はこの地域で先行して造られていた四隅突出型墳丘墓の斜面の「貼石」などの構造を受け継いでいると考えられます。また平面的に見ると，墳端の一部が弓状に反っていることも特徴の一つです。

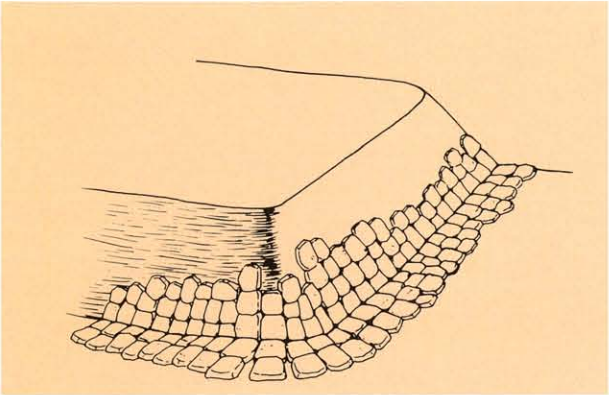


図４　葺石の模式図

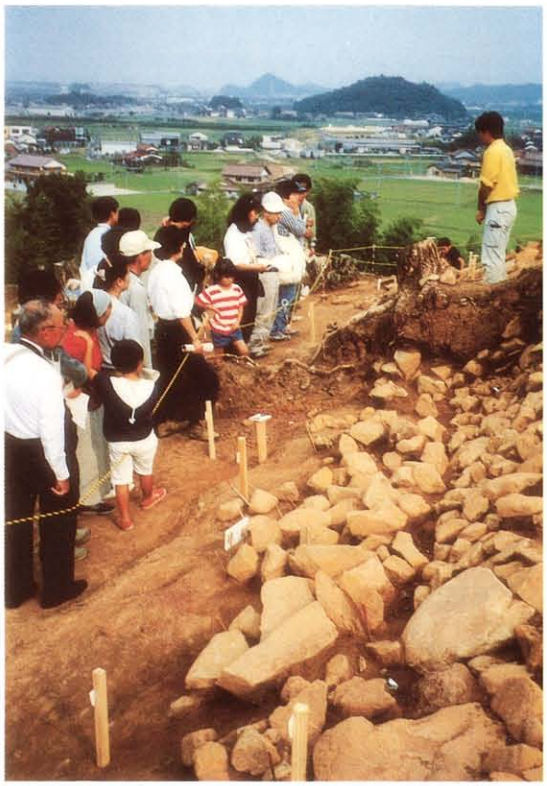


図５　北側斜面の様子

図６　葺石と墳丘の様子（墳丘北側から）

埋葬施設

墳頂平坦面で６個の埋葬施設を確認しています（第１～第６主体）。

第１主体は，東西方向に長軸を持つ竪穴式石室です。内部は未調査ですが，墓壙内に，約6.5×2.5メートル高さ1.2メートルの竪穴式石室が造られています。このような大型の竪穴式石室は，当時勢力を拡大しつつあった大和政権の政治的影響の結果，各地へ拡がったと考えられており，県内では他に数例しか確認されていません。その他は，第１主体より後に埋葬が行われています。調査を行った第３主体は，約4.2×2.5メートルの二段掘りの墓壙底に５センチメートル以下の円礫を敷き詰め，この上に西頭位で割竹型木棺を置き，壙底と同じ円礫で棺を埋め，この上を白砂で厚く覆うという方法が採られています。同様の方法には八束郡東出雲町寺床１号墳第１主体があります。第５主体は高坏で蓋をし口縁を西に向けた壺を使用した土器棺です。第６主体は吉備地方の特殊器台の影響を受けた土器を棺に使用しています。

このように，埋葬施設には他地域から伝わった新しい技術と，砂や土器の使用や礫床といった在地色を濃く残す技術が混在していることが明らかになりました。

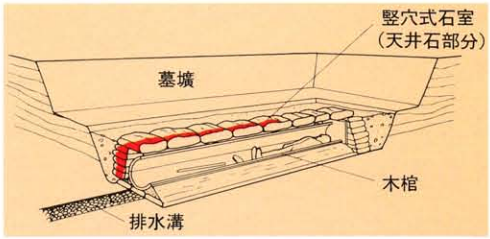
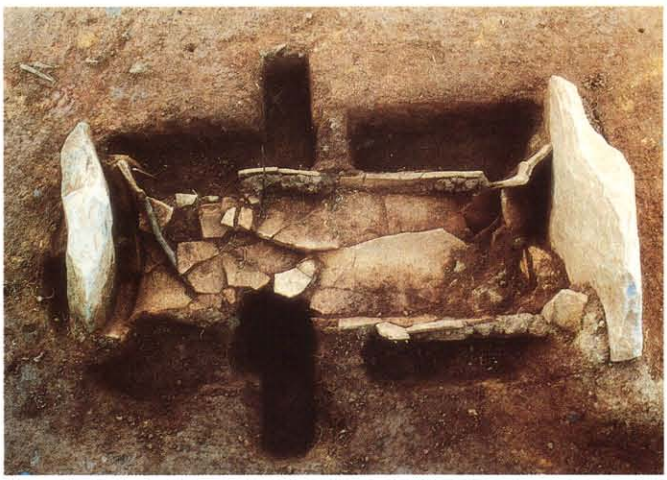


図７　竪穴式石室の模式図

図８　第１主体（竪穴式石室）
（図７の朱色部分）



（上）図10　第６主体

（左）図９　第３主体

出土した遺物

墳頂部のそれぞれの埋葬には，墓壙を埋めた後に土器が供えられており，上面から多数の土器が小片で出土しています。また墳端南東隅でも壺が１個体出土しています。これらは，壺，甕，高坏，低脚坏，鼓型器台といった在地で一般的に見られる土器です。棺として使用された土器には，大型の壺と高坏（第５主体）や，弥生時代後期以降吉備地方を中心に分布する特殊器台の影響をうけて製作されたと思われる土器（第６主体）があります。そのほか第２主体の上面からは銅製と見られる鏃１，第３主体の棺内からは副葬された鉄製の小刀（刀子）１が出土しています。

図11　第６主体で使用された土器

図12　鏃

図13　小刀（刀子）

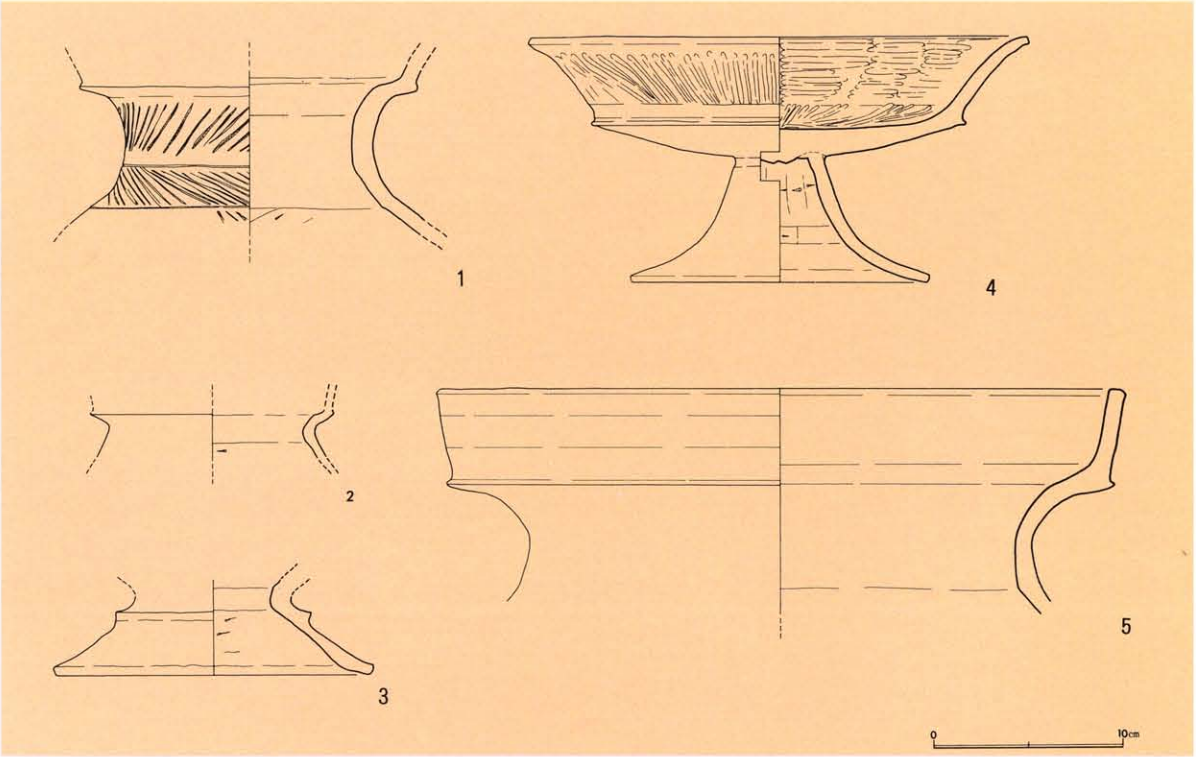


図14　出土土器実測図
（１，２，３ 第１主体直上出土，４，５ 第５主体使用の土器）

年代	約一万年前	前三〇〇年	西暦一年	二三九年	三〇〇年頃	五三八年	五九三年	六四五年	七四一年	七五二年
時代	旧石器時代 縄文時代		弥生時代		古墳時代				奈良時代	
くらしやできごと	・土器作り始まる。 ・狩りや漁で生活し、貝塚などを残した。	・米作り伝わる。 ・弥生土器作られる。	・青銅器や鉄器が使われ始める。 ・ムラがまとまり、国の原形ができてくる。	・邪馬台国の卑弥呼、魏に遣いを送る。	・大和政権を中心とする政治的まとまりができる。	・須恵器が作られ始める。 ・仏教が伝わる。	・聖徳太子が摂政になる。	・大化の改新	・火葬が行われ始める。 ・平城京に都を遷す。	・国分寺、国分尼寺の建立始まる。 ・東大寺の大仏完成
周辺の主な墳墓				・仲仙寺墳墓群、宮山四号墓、安養寺墳墓群などの四隅突出型墳丘墓がつくられる。	※この頃塩津山一号墳がつくられる。 ・大成古墳、造山一号墳、三号墳などがつくられる。	・仏山古墳、宮山一号墳などがつくられる。	・塩津神社古墳、若塚古墳などがつくられる。	・日白横穴墓群がつくられる。	・小久白遺跡や中山遺跡で火葬墓がつくられる。	

表１　関連年表

ま と め

今回の調査で，塩津山１号墳が古墳時代前期の古墳であることが明らかになりました。遺存の状態も良く，資料的価値は非常に高いと思われます。

墳丘斜面では，島根県内でこれまでに調査例の少なかった前期古墳の葺石が検出されました。これには，弥生時代後期（３世紀ごろ）に出雲地方を中心とする日本海側や，中国地方山間部で造られていた四隅突出型墳丘墓に見られる「貼石」と「テラス状」の構造が見られ，弥生時代後期以来の在地の伝統を色濃く残しています。

埋葬施設では，規模が最大でこの古墳の中心埋葬と見られる第１主体に，弥生時代の墓制では全く見られなかった最新の埋葬形態である長大な竪穴式石室が採用されているかたわらで，砂の使用，多数の供献土器の使用など弥生墓以来伝統的に在地で採られていた技法の両者が見られます。それぞれの埋葬の方法が全く異なったバラエティーに富んだものであることも，この古墳を特徴付けています。また，古墳の中心的な埋葬施設に規模の大きい竪穴式石室が造られている古墳で，この古墳の様に多数の埋葬施設を持つ古墳は，全国でもほとんど知られておらず，古墳時代前期の墓制を探る上で，重要な発見となりました。

塩津山１号墳の発見された安来市荒島町周辺の丘陵上は，弥生時代後期の四隅突出型墳丘墓から当地域で最大規模の前期古墳が集中するという全国的にも稀な地域であり，初期大和政権が地方勢力を取り込み拡大していった過程を考えるうえで，非常に重要な地域です。こうした場所で，塩津山１号墳のような在地色を強く残す前期古墳が発見されたことは，この地域の歴史を解明していく上ではもちろん，列島が国として一つにまとまっていく様子を考える上でも，非常に重要な古墳であるといえます。

塩津山一号墳、安来平野から遠く大山を望む
（航空写真）

塩津山１号墳

―一般国道９号（安来道路）建設予定地内
埋蔵文化財調査概報―

発行　1995年３月

編集　島根県教育委員会
島根県松江市殿町１番地

印刷　㈲ 松 陽 印 刷 所